

冬のまちあるき結果報告書

平成29年2月15日

○ 冬のまちあるき及び意見交換会の様子

小樽市立病院周辺



駅前広場



小樽協会病院周辺



歩道橋周辺



意見交換会



【主な意見】

経路	現地調査・意見交換会における主な意見	
住吉線 (全般)	<p>○砂まき路線として、住吉線が位置付けられていないため、今後調整が必要。</p> <p>○歩道に民間側でロードヒーティングを設置している区間があり、段差が発生する。</p> <p>○冬は点字ブロックが見えなくなるため、バリアフリー対応が難しい。</p> <p>○冬期は、夏期と同じサービス水準を確保することが難しいため、地域の方でできることを考えてはどうか。</p> <p>○道路構造を直すことが難しいところは、砂まき等での対応が必要。</p>	
小樽市立病院周辺	<p>○夏期の歩行者動線と除雪後の歩行者動線がずれているため、点字ブロック利用者が除雪した雪山にぶつかる危険がある。</p> <p>○小樽市立病院横の横断歩道の勾配が急なため、滑る。</p>	
双葉高校周辺	<p>○バス停前の除雪の状態が悪く、雪山も高くなり、歩道も狭い。</p> <p>○そもそも歩道幅員が狭いことが問題である。</p>	

<p>市道住吉線と国道との交差点周辺</p>	<p>○歩道橋は幅員が狭く、滑る危険があるため、撤去し横断歩道にするべき。</p> <p>○歩道橋の下を歩く際、雪で歩道が高くなっているため、頭をぶつけそうになる。</p> <p>○老朽化している。</p> <p>○歩道橋付近は、車いす利用者も通行するため、歩道橋付近の歩道幅員を広くするなど、道路再配分等の対策も検討するべき。</p> <p>○道路再配分等の対策をすることも視野に入れ、状況を整理することが必要。</p>	 <p>The first photo shows a narrow pedestrian bridge with yellow railings over a road. The second photo shows a snowy street with a pedestrian crossing and a blue sign. The third photo shows a person walking through deep snow on a path.</p>
<p>市立病院駐車場周辺</p>	<p>○積雪により、横断歩道が見えないため、押しボタン式信号があるかどうかわかりにくい。</p>	 <p>The photo shows a black pedestrian crossing button on a sidewalk, almost completely covered by a thick layer of snow.</p>
<p>駅前広場</p>	<p>○南小樽駅が道路より低いため、住吉線に出るのに坂道が多く、車いすで坂道を上ることが困難である。</p> <p>○住吉線の高さまで駅を上げればよいのでは。</p> <p>○駅前広場の勾配が急なため、気温が上がると滑り、タクシーや車とぶつかる危険性がある。</p>	 <p>The photo shows a snowy street scene with a white car parked on the left and utility poles with wires in the background.</p>

【まとめ】

まちあるきを実施しての意見としては、市道住吉線では、歩道部の積雪や雪山による通行障がいや、ロードヒーティングによる段差の発生及び交差点部の雪山による低い視認性や、滑り易い横断歩道の危険性などが指摘された。

駅前広場では、南小樽駅と市道住吉線との高低差が大きく、歩行者動線に勾配が生じることから、車いすでの通行の困難さやつるつる路面によるスリップの危険性が指摘された。

他の意見として、横断歩道橋の段差の危険性や周辺歩行空間の狭隘さなどについて指摘があった。

今後は、砂まきなどによるつるつる路面对策の推進や、雪山の除却などによる交差点部の視認性や歩行空間の確保に努める必要があるものとする。

また、基本構想（素案）における冬期に関する事項で、第6章第3項「冬期の課題への対応方針」に対しては、記述の修正や追加などが必要となる意見や指摘はなかった。

【参考】 基本構想（素案）p43

6-3 冬期の課題への対応方針

冬期は歩行可能な幅員の減少や、凍結によるつるつる路面など、夏期と比べて歩行環境が悪化することから、歩行空間の除排雪や砂まきなどのつるつる路面对策を推進し、歩行環境の向上に努めます。

また、施設整備や行政による除排雪などの対応に加えて、各施設管理者や市民による砂まきボランティアへの参加など、地域全体と行政とが協働で対策の役割を担うことで冬期のバリアフリー環境の改善を目指します。

